

## 研究助成金に新規分野を新設します



## 故 柳澤正義先生追悼

(詳細:2・3面)

## 留学体験記

(詳細:2・3面)

## 令和2年度事業

(詳細:4面)

令和元年度  
研究助成金交付対象者・  
アワード(優秀論文著者)・  
海外留学フェロウシップ  
選考結果

(詳細:別紙)

## 特別寄稿

## Close to the Edge



徳島大学医歯薬学研究部  
小児科学分野教授  
第123回日本小児科学会学術集会会頭  
香美 祥二

私が米国留学をしたのは30年前のことです。丁度その頃、自らの専門領域の疑問を解決するために必要な技術、アイデアを開拓するための場所と時間が必要な時期でした。海外留学はその良い機会になりました。同時に、世界の広さやヒトの考えの多様性を知る貴重な経験を積むことができました。現在、教育・研究・臨床につき後進を指導する立場となり、医学・医療教育の現場では、若手医師に考える力(リサーチマインド)を身につけることが重要であると伝えています。そのために、私はよくウィリアム・オスラー(William Osler, 1849年~1919年)の言葉を紹介しています。オスラー博士は今日の医学教育の基礎を築いた偉人で、色々な機会に数多くの教育的講演を行っており、それが講演集、「平静の心」(訳:日野原重明)として残っています。その中に、「叡知と知識は別のもの」の部分があり次のように解説されています。知識と叡知には関係性が無い。知識が宿るのは他人の考えが詰まった頭。叡知が宿るのは自分で考える心。知識は沢山学んだと自慢し、叡知はこれしか知らないと謙虚する。つまり医学、医療においては、単純な経験数、知識の蓄積量ではなく、経験や既成知識から延伸した深く考える力、叡知を身につけることが重要で、現時点でどこまで知識、事実として分かっているのか?、分かっている限界、境界にできる限り近づく(Close to the Edge)努力が必要であるということです。これがないと研究や臨床において新しい知見やアイデアを提案することができないと思います。留学の際には自分のアイデアが世界の中でどの位置にあるのか、時間を有効に使いとことん考え抜いて頂きたいと願っています。



本財団監事  
**柳澤 正義先生**が  
 令和元年12月3日逝去されました。  
 ここに謹んで  
 哀悼の意を表します。

<柳澤正義先生のご略歴・ご功績の概要>

昭和14年7月25日 生

学 歴

- 昭和39年3月 東京大学医学部医学科卒業
- 昭和44年7月 東京大学大学院医学系研究科修士、医学博士

職 歴

- 昭和49年4月 自治医科大学小児科学助教授
- 昭和60年7月 自治医科大学小児科学教授
- 平成6年4月 東京大学医学部小児科学教授
- 平成12年7月 国立大蔵病院長
- 平成14年3月 国立成育医療センター病院長
- 平成16年4月 国立成育医療センター総長
- 平成17年4月 国立成育医療センター名誉総長  
(社福)恩賜財団母子愛育会  
日本子ども家庭総合研究所副所長
- 平成18年4月 (社福)恩賜財団母子愛育会  
日本子ども家庭総合研究所長
- 平成24年4月 (社福)恩賜財団母子愛育会  
日本子ども家庭総合研究所名誉所長

学会役員等

- (公 社)日本小児科学会理事・会長・監事・諮問委員・名誉会員
- (公 社)日本小児保健協会理事・副会長・監事・名誉会員
- (特非活)日本小児循環器学会理事・監事・名誉会員
- (一 社)日本専門医制評価・認定機構理事・監事(～平成26年)

団体役員等

- (公 財)小児医学研究振興財団理事長・監事
- (公 財)母子衛生研究会評議員長
- (公 財)日本国際医学協会監事
- (公 財)日本心臓血圧研究振興会評議員
- (公 財)川野小児医学奨学財団常務理事
- (公 財)ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン理事長
- (社 福)恩賜財団母子愛育会評議員
- (特非活)“遊びとつけ”推進会理事長
- (特非活)臨床研究の倫理を考える会副理事長
- (一 財)重い病気を持つ子どもと家族を支える財団理事

追 悼



柳澤正義先生を偲ぶ

国立成育医療研究センター  
 名誉総長  
**松尾 宣武**

永年、小児医学研究振興財団理事長として、財団の発展に尽力いただきました、柳澤正義先生は、2019年12月3日急逝されました。慎んでお悔やみ申し上げます。1997年4月、日本小児科学会は、創立百周年記念事業として、小児医学研究振興財団の設立を承認しました。しかし國は行政改革の最中にあり、財団が公益財団法人として認可されるまでには20年余の歳月を要しました。財団生みの親とも言うべき嶋下重彦先生は揺籃期から財団の発展を先導してこられました。愛弟子である柳澤正義先生の献身を忘れることはできません。

周知のように、がん、循環器病を含む、多くの成人病関連学会は、古くより、大規模な研究振興財団を設立し、会員の研究活動を支援していますが、小児科学会は会員の研究活動を支援するシステムを持たない数少ない学会の一つであり、この状態を打開することは、喫緊の課題でありました。

21世紀、先進諸国において、小児医療・保健の主要テーマは大きく変わりました。かいつまんで言えば、生物学的疾病から社会的病理への変遷であり、小児の健康概念は家族、地域、社会を包括する問題に発展しました。小児精神保健・少子対策における欧米の研究成果の直輸入は文化や歴史の異なるわが国において機能しないことは自明であります。この分野の研究の立ち遅れを克服することは必要不可欠の課題です。

当財団は、柳澤正義先生のご遺志を継ぎ小児科医の研究支援、グローバル化に努めてまいります。



東北大学病院  
 小児科  
**森谷 邦彦**



留学体験記

私は2015年10月から3年半の間、フランス国立衛生医学研究所 Inserm内の感染免疫部門 Dr. Jean-Laurent Casanova研究室に留学してきました。研究所は欧州最古の小児病院であるネッカー小児病院に隣接している付属遺伝性疾患研究所でCasanova研

究室は細菌、真菌、マイコバクテリア、ウイルス(特にヘルペス脳炎、重症インフルエンザ)に易感染を示す原発性免疫不全症(primary immunodeficiency:PID)、自己炎症症候群の患者家系を世界中から集積して新規責任遺伝子を見つけ、機能解析を通じてマウス

免疫学では示せないようなヒトの新たな感染防御機構の解明を行ってまいりました。

大学院生時代はマウスを用いた実験を行っていましたが、留学し帰国してから臨床をやりながらの研究を考えるとマウスなど動物を使わない仕事をしたいと



## 追悼



### 柳澤正義先生の 思い出

医療法人社団 千歳会  
キッズクリニック院長

柳川 幸重

初めてお目にかかったのは、昭和46(1971)年に東大病院で小児科学研修を始めた時でした。心臓カテーテル検査を直接ご指導頂いたのは幸運でした。

東大での研修後、ニューヨークのブルックリンの病院で臨床研修をしている時期に、雑誌Pediatrics (1974)に、川崎病では冠動脈瘤ができるという先生のご報告が掲載されました。「川崎病」という病名(この当時英語ではMLNSと記載)も、ましてや「冠動脈瘤」という合併症も知られていなかった時期なので小児科でも話題になり、私はとても誇らしい気持ちになったことを覚えております。

その後のNYU medical center & Bellvue Hospital での小児心臓病学フェローとしての臨床研修時に、心臓カテーテル検査の見学をしていてカテーテル陰影が心陰影の右上方に突き出てしまった時に、「right upper pulmonary vein に入っただけだ」とコメントしたのが私だけであったので、教授に感心されました。これも柳澤先生のご指導のお陰であると感謝しました。

帰国後も小児心臓病学を通じて先生にはお世話になってまいりました。瑞宝重光章叙勲(平成25年)の偉い方であるにもかかわらず、全く偉ぶらないで、以前と変わらずに私どもとお付き合い頂いたことは、先生のお人柄が反映されていたと感じています。

お好きだったゴルフを通じて、近年先生と親しくお付き合いさせて頂きましたことは、とても素敵で幸せな経験でした。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 追悼



### 柳澤正義先生の 御冥福を心より お祈り申し上げます。

国立成育医療研究センター理事長

五十嵐 隆

柳澤正義先生は小児医学研究振興財団の理事長を長くお務めになり、当財団の発展に御尽力されました。財団の基金による小児医学研究への助成額が限られているため、企業からの御寄付による研究助成や海外留学の道を開拓されました。さらに、企業からの御寄付が減った一昨年には、日本小児科学会理事会の賛同を得て、日本小児科学会から3年間を限度に研究資金を配分して戴くことになりました。これらは柳澤先生の御指導によるもので、その結果、小児医学研究振興財団の研究支援活動は発展的に運営されています。先生は理事長後退任後も当財団の監事として、財団の運営に御貢献されました。

柳澤正義先生は川崎病の冠動脈合併症に世界で初めて気づき、論文文化(Pediatrics 54: 277-280, 1974)されたことが示すように、小児科医あるいは小児循環器科医として抜群の感性と高い技量をお持ちでした。赴任された自治医科大学小児科、東京大学小児科、国立大蔵病院、国立成育医療研究センターでは臨床の活性化を目指され、多くの後進が御指導を戴きました。柳澤先生の何時も穏やかで真摯なお姿と臨床を大切にされる姿勢に多くの者が感銘し、柳澤先生の様になることを望んでいました。また、先生は母子愛育会日本子ども家庭総合研究所長として小児保健の分野でも御尽力されました。先生の御逝去は大変悲しく、残念です。柳澤正義先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。



思っていました。留学先の研究室がまさにそうですが、幸い現在のテクノロジーでiPS細胞をはじめ解析手段は増えており徹底的にヒト検体にこだわり研究をしています。これらの流れについては日本に戻ってから小児科研究室でもやっていけたらと思っています。

今回受賞させていただいた財団の方々、医局・同窓会の先生方・スタッフの方々、そして家族に対し、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



## 研究助成金

- ① 小児医学領域全般研究助成金  
1件200万円以内 総額700万円
- ② アサヒグループ食品研究助成金(乳幼児栄養)  
総額100万円 2件程度
- ③ 小児の社会医学的研究助成金(疫学・統計含む)  
1件100万円以内 総額300万円
- ④ リアルワールドデータ研究助成金  
(学校健診・診療データベース利用による研究)  
1件30万円 3件以内【新設】

※(一社)法人健康・医療・教育情報評価推進機構が保有する学校健診情報データおよび電子カルテ診療情報のデータベースを用いた臨床研究。

## 海外留学奨学金

- ① 小児医学領域全般に関する研究  
総額350万円
- ② 子どもの心の問題に関する研究  
1件150万円

## 優秀論文アワード

日本小児科学会、日本小児神経学会、日本小児精神神経学会及び日本小児心身医学会機関誌に掲載された原著論文のうち、優秀論文の筆頭著者を褒賞。

※応募要項は財団ホームページにてご覧いただけます。

## 賛助会員(個人)

※敬称略 五十音順

赤司俊二 旭壯一郎 安次馨寛 東雄一 足立雄一 熱田裕 雨宮伸 鮎沢衛 新垣義夫 荒川浩一 有賀正誠 飯島一幹 飯島隆行 五十嵐博 池本アケミ 石井尚吾 石井正浩 石倉健司 石崎朝世 位田忍 井田博幸 井田孔明 板橋家頭 市田落子 市橋光梓 伊津見陸 逸見悦朗 伊藤秀一 伊藤末志 伊藤進夫 伊藤辰彦 伊藤保彦 伊藤雄平 稲垣治 稲垣由健 井原幸子 今井秀人 今村俊彦 今村孝敏 岩田力二郎 岩元正志	内田祐子 宇理須厚雄 江口尚彦 瀨藤隆義 衛藤義勝 遠藤文夫 小穴慎二 老田礼子 尾内一信 大賀正一 大澤洋二 大嶋真木 大嶋勇成 大久保美登里 大蘭恵一 太田和秀 太田節雄 太田秀臣 太田晨 大西正純 大野耕策 大森伊織 岡田純一 岡田勤一郎 岡部博文 岡小川俊一 沖潤一 小口学 奥山眞紀 小泉仁 小坂慈 小田美知子 小堂欣彌 小野靖彦 小野治美 賀川正行 加治康弘 勝藤達均 加藤誠 加藤正彦	加藤陽子 藤加藤弘一 藤金勝一 藤門金加納 藤加納和子 藤鴨下敬世 河西紀昭 河川浩史 川又はるみ 神崎晋 喜多悦子 貴田岡節子 北本育子 北本哲 吉川司 木野稔 木村宏隆 日下隆 楠田浩一 楠原協志 工藤政勝 窪田忠俊 倉辻桑原 呉建夫 郡一健 小池晶一 小泉ひろみ 小泉幸治 河野祥二 河野潤 香美尚志 神山洋子 桑原ひで 幸山仁 幸山浩子 後藤彰子 後藤敦一 後藤繁一 小林正夫 小林典久	山一 小犀川 齊藤 齋藤 齋藤 齋藤 佐伯 嵯峨 酒井 酒井 坂本 佐間 櫻井 佐々木 佐々木 四方 重松 柴田 嶋水 清水 下条 下村 白井 白石 白川 末延 杉浦 杉本 杉本 鈴木 鈴木 鈴木 鈴木 須田 須磨 清野 関 関口 瀬島 高島 高橋 高橋 高橋 滝沢	佳紀太 和由治 伸博久 進一 進一 六雄夫 規成 由美 嘉望 望里 あかね 陽介 瑞美 泉明 直樹 国寿 比湖 嘉継 一康 徹和 圭相 孝雄 敏雄 康之 亮治 憲治 亮紀 亮紀 秀俊 一郎 斉夫 尚雄 勉己	滝田順子 宅見則夫 内博子 竹重泰弘 竹島哲久 武知茂 竹広剛篤 田中なみ 田中英高 田中浩一 玉井喜久 田村正徳 千田勝一 長和彦 塚田秀男 塚田章志 辻與之 土屋晶子 續裕幸 堤正雄 鶴澤道之 寺井春英 寺門拓郎 寺田創 寺本秀文 遠山修一 戸外雄 外富尚 富沢希美 井中浩一 中野貴司 中村俊 中畑龍 中原智子 成田雅美 新津直樹 西久敏也 西澤嘉四郎 新田康郎	西卷滋 布井博幸 橋本和廣 長谷川行洋 長谷川俊史 長谷川茉莉 長谷川美香 羽田野爲夫 服部益治 服部元史 馬場常嘉 早川依子 原寿郎 原正守 張田豊 波呂久美 春日恒和 日暮敬男 平山雅浩 廣瀨伸一 廣津卓郎 福重淳一郎 深尾敏幸 深澤隆治 福永慶隆 藤井達哉 藤枝幹也 藤岡雅司 藤木伴男 藤田弘 藤田滋 藤野匠 藤村匠 藤原真秀 二村正久 船戸正典 船戸仁一 舟本俊男 別所文雄 坂所シゲリ 星加忠孝 星加美恵子 保科弘毅 細井創	細矢光亮 堀川玲子 堀川志仁 前多喜平 前多治雄 前田美穂 正木拓朗 松井陽宣 松尾武雅 松尾文雅 松平宗明 松平隆光 松永伸二 真部淳 丸山剛志 丸山輝久 三池水野 水野南沢 三牧宮尾 宮城宮島 宮代宮島 村上麦島 村瀬上 村田瀬 本村知 元山知 森哲夫 森内浩幸 森尾秀宏 森川昭廣 森口直彦 森下秀利 守田利貞 森田友明 盛武浩一 森脇裕一 師井八木 安田地寬 柳川幸重	籾内弘 山内秀滋 山内穰雄 山内毅 山形崇倫 山岸敬幸 山口清次 山下薫 山下美代子 山下裕史 山下亮子 山城雄一郎 山田恭一郎 山野恒一 山本圭子 山本威久 山本玉路 山脇英範	横田俊平 横田進 横谷茂 横山義正 横山三恵子 吉岡哲史 吉川康子 吉田ゆかり 吉野信 吉原重美 脇研自宏 脇口和子 和田信雄 渡邊博 渡部礼二
--	--	--	--	---	--	---	--	--	--

## 賛助会員(法人)

アサヒグループ食品株式会社  
エーザイ株式会社  
MSD株式会社  
杏林製薬株式会社  
Story of the tortoise株式会社  
第一三共株式会社  
帝人ファーマ株式会社  
株式会社ナチュラルサイエンス  
Meiji Seika ファルマ株式会社  
医療社団法人 メディカル・プロ

## 協賛企業

アサヒグループ食品株式会社  
アステラス製薬株式会社  
株式会社オグラ  
JCRファーマ株式会社  
武田薬品工業株式会社  
中外製薬株式会社  
大日本住友製薬株式会社  
日本マクドナルド株式会社  
ノボルデイスクファーマ株式会社  
マルホ株式会社

## 寄付者

吉川 武志

賛助会費は、所得税控除または  
税額控除を受けられます。

個人 1口/年 10,000円 法人 1口/年100,000円

ご入会・会員のご所属先変更などのご連絡は、下記で承っております。

事務局



公益財団法人 小児医学研究振興財団  
JAPAN FOUNDATION FOR PEDIATRIC RESEARCH

〒110-0015 東京都台東区東上野3-32-2 廣瀬ビル4B

TEL (03) 5818-2601 / FAX (03) 5818-2602

e-mail: shouni-iken@jfpedres.or.jp

http://www.jfpedres.or.jp/

編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行により、第123回日本小児科学会学術集会在8月に延期となりました。第114回学術集会も新型コロナウイルス流行により8月に延期されています。開催延期を決定された香美会頭に感謝すると共に、現在関係者が様々な対応をされておられることに頭を垂れる思いです。8月の第123回学術集会が盛会となることを祈ります。

(常務理事 五十嵐 隆)

### 「子どもの世紀」について

News Letter題字の「子どもたちの世紀」は、日本小児科学会が創立百周年を迎えた当時の厚生大臣であられた小泉純一郎先生に揮毫をお願いしてご快諾頂き、総理事大臣が在任中にお書きいただいたものです。



# 令和元年度 研究助成金交付対象者 選考結果

令和元年度 研修助成金交付対象者が下記のとおり決定いたしました。

## 研究助成金

### (1)小児科領域全般

塩澤 裕介	日本医科大学研究部共同研究施設 分子解析研究室 助教	汎用的かつ標的臓器特異的な新規遺伝子治療法の開発
堀之内智子	神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野 特命助教	スプライシング異常による遺伝性腎疾患発症メカニズムの 解明と治療法開発研究
新堀 哲也	東北大学大学院医学系研究科 遺伝医療学分野 准教授	ゲノム編集技術を用いた骨髄不全モデルゼブラフィッシュの 作成と病態解明
田村 彰広	兵庫県立こども病院 血液腫瘍内科 医長	C/EBP $\beta$ 依存的非古典的単球の制御による 新規小児がん治療法開発
宮内 彰彦	自治医科大学小児科 助教	ミトコンドリア病の細胞死病態の解明と治療薬開発

### (2)アサヒグループ食品研究助成金

難波 文彦	埼玉医科大学総合医療センター小児科 准教授	母体低栄養は胎児・新生児の肺発達および肺障害・ 修復過程に影響するか？
櫻井基一郎	昭和大学江東豊洲病院小児内科 医師・講師	ドライパウダー化した母乳の保存期間による成分変化の検討

### (3)社会医学的研究助成金

野村 理	弘前大学大学院医学研究科 救急・災害医学講座 助教	小児領域に特化した日本語版臨床推論能力評価ツールの 開発と妥当性検証
森島 遼	東京大学大学院医学系研究科 脳神経医学専攻精神医学教室 博士課程 大学院生	思春期におけるスマートフォン依存の有病率調査と生活習慣及び 精神保健アウトカムへの影響の検討:支援つき疫学調査研究
武内 治郎	兵庫医科大学臨床疫学 助教	小児・思春期の入院患者における医療関連有害事象に関して こころの問題領域と身体疾患領域とを比較した臨床疫学研究
滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科小児科 准教授	本邦における生活困窮度とアレルギー疾患の有病率、 重症度の検討
都築 慎也	国立国際医療研究センター 国際感染症センター 主任研究員	ベトナムにおけるRSウイルスワクチンの導入による 医療経済学的効果

## 御 礼

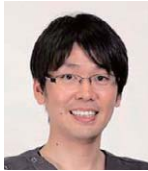
賛助会員及び多くの協賛企業・寄付者の皆様のご支援により、令和元年度も小児医学研究に携わる18名の若手小児科医・研究者に研究・留学費の支援、優秀論文アワードの授与を実施することができました。

皆様のご支援に、あらためて心より御礼申し上げます。

財団では、本年度より新たに学校・診療データベース利用による研究に関する研究助成金を加え、子ども達の健康を守る事業に一層の努力をしまいる所存です。

引き続きご支援・ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

## ● 小児医学研究振興財団アワード(和文誌)



熊本赤十字病院第一小児科副部長  
東京女子医科大学腎臓小児科非常勤講師  
**伴 英樹**

小児腎移植後サイトメガウイルス目見感染  
の臨床的特徴と移植腎機能に及ぼす影響  
日本小児科学会雑誌 2019;123(4):727-733

このような名誉ある賞を頂き、誠にありがとうございます。本論文では、我々が日々感じている小児腎移植後CMV感染の管理の難しさと、CMV感染が移植腎機能に影響を与える可能性について報告致しました。小児腎移植医療の発展に少しでも貢献できましたら幸いです。本論文を作成するにあたりご指導頂いた東京女子医科大学腎臓小児科 服部元史先生、三浦健一郎先生はじめ共著の先生方、査読頂いた先生方、そして、私を支えてくれた家族に、この場をお借りして深謝申し上げます。

## ● 小児医学研究振興財団アワード(英文誌)



国立がん研究センター中央病院  
臨床研究支援部門 研究企画推進部/小児腫瘍科  
**石丸 紗恵**

Nationwide survey of pediatric hypodiploid  
acute lymphoblastic leukemia in Japan  
Pediatrics International 2019; 61(11):1103-1108

このたびは、このような名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。本論文は、全国の小児がん治療をリードしてきた4つの臨床研究グループ合同で行った、小児低2倍体急性リンパ性白血病の予後に関する後方視的調査の結果です。この結果が基礎データとして今後役に立てば望外の喜びです。この受賞を励みに一層の精進を重ねてまいります。最後になりましたが、これまで各グループの臨床研究に参加して下さった患者さんとそのご家族のみなさま、データ収集にご協力くださった施設の先生方、ご指導くださった共著の先生方に心より感謝申し上げます。

## ● 福山幸夫アワード



国立精神・神経医療研究センター病院小児神経科  
**斎藤 良彦**

Association of inattention with slow-spindle  
density in sleep EEG of Children with attention  
deficit-hyperactivity disorder  
Brain & Development 2019; 41(9):751-759

この度は身に余る光栄な賞に選出して頂き、心より感謝申し上げます。本論文は、実臨床でADHD児に特徴的な脳波所見に遭遇したことを契機に解析に至りました。本研究の成果が、実臨床の一助となりましたら幸いです。ご指導頂いた稲垣真澄先生、中川栄二先生、加賀佳美先生、共著の先生方、査読頂いた先生方、ならびに研究にご参加頂いた患者さんにこの場を借りて御礼申し上げます。今後もこの受賞を励みに精進していきたいと存じます。

## ● 福山幸夫アワード



獨協医科大学埼玉医療センター  
子どものこころ診療センター・助教  
**荒川 明里**

概日リズム睡眠・覚醒障害を伴う不登校児に対する  
短期入院療法「元気☆生活プログラム」の試み  
子どもの心とからだ 2019;28(3):298-303

この度はこのような名誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。不登校児の診療では、児の生活習慣が乱れさらに登校状況が悪化し、家庭内での試みだけでは改善が得られない例も多く経験します。当院では行動療法と院内学級を軸とした入院療法を作成し本論文として報告しました。本研究の結果が実臨床の一助になれば幸いです。本論文の執筆にあたり作田亮一教授をはじめご指導いただいた先生方にお礼申し上げます。この受賞を励みに今後とも一層精進を重ねていきたいと思っております。

## 福山幸夫アワードについて

当財団では、日本イーライリリー株式会社のご協賛により、平成14年から17年間にわたり、小児の神経分野や心の領域に関する優秀論文褒賞として、「日本イーライリリーアワード」を実施してまいりましたが、平成30年度で同社の協賛が終了いたしました。

財団としては、これらの分野の論文表彰を引き続き継続してまいりたく、令和元年度は、故福山幸夫先生の遺贈寄付資産を原資とする「福山幸夫アワード」として、上記の2名の方を表彰することに決定いたしました。

## ● 海外留学フェローシップ(小児科領域全般に関する研究)



神戸大学大学院医学研究科内科系講座  
小児科学分野・助教  
**山村 智彦**

アルポート症候群の発症・重症化機序の  
解明と新規治療ターゲットの同定

この度は海外留学フェローシップに採択いただき、心より感謝を申し上げます。私はこれまで代表的遺伝性腎疾患であるアルポート症候群について、臨床像・遺伝子型の相関関係や、新規治療法の開発に関する研究に取り組んできました。今後は、いまだ明らかになっていないアルポート症候群の発症・重症化機序の解明を目指すべく研究を続け、わが国の小児医療の発展に貢献できるように精進して参る所存です。今回、このような貴重な機会を与您いただきました貴財団の皆様がこの場をお借りして深謝申し上げます。

## ● 海外留学フェローシップ(子どもの心の問題に関する研究)



千葉大学子どものこころの発達教育研究センター  
日本学術振興会特別研究員(PD)  
**濱谷 沙世**

子どもの過食行動に対する日本語版  
インターネット認知行動療法の開発

令和元年度海外留学フェローシップ子どもの心の問題に関する研究に採用していただき光栄です。これまで私は、摂食障害の神経基盤や治療法について研究してきました。2020年度からは、スウェーデンのリンショーピング大学にて、日本語版子どもの過食行動に対するインターネット認知行動療法システムの開発に取り組めます。今回の受賞を励みに、我が国の小児医療に貢献できるよう今後も研究活動に精進して参ります。この場をお借りして心より御礼申し上げます。